

第1回標準化とアカデミアとの連携に関する検討会について

令和5年10月30日

ダイキン工業株式会社 常務執行役員

澤井 克行

大学技術移転協議会（UNITT）アニュアル・カンファレンス 2023 について

世の中の動きが早く、かつ環境・気候変動・人権・コンプライアンス・経済安保等々グローバルレベルで解決すべき諸課題が山積している現在において、新たな技術開発や仕組みの構築がとても大切な状況にあると認識。

このような状況下において、これらの新しい事項が世界の枠組みの中で正しく利用され地球社会に貢献していくためには、それらが正しく評価されると同時に、社会実装されなければなりません。

デファクトスタンダードであり、デジュールスタンダードであるべき。そのためには標準化・ルール形成という取り組みはとても重要な取り組みであると認識しています。標準化においては欧州が様々な規制を検討もしくは導入をしており、それらの規制対応をするという受け身ではなく、規制策定段階で日本の意見を発信していくことが重要。また、一方新しい技術導入をすることで市場形成にもつながり、それらは企業の成長発展にもつながるという観点も大切です。企業が健全に利益を創出してこそ、企業がサステナブルに存続し、社会に還元・貢献できると考えます。

企業が標準化・ルール形成に取り組むときに、一私企業がいくらこれらを訴えたとしても、なかなか前には進みません。やはりひとつは業界団体として工業会等での意見提案として出すべきで、その際にやはり技術的な内容であれば、そのエビデンスとして様々な技術見解とデータが求められます。

アカデミアの皆様には、これらの新しい技術や仕組みの社会導入の必要性を学術見地から導いていただき、そのエビデンスとしての技術データの構築を是非お願いしたいと考えます。